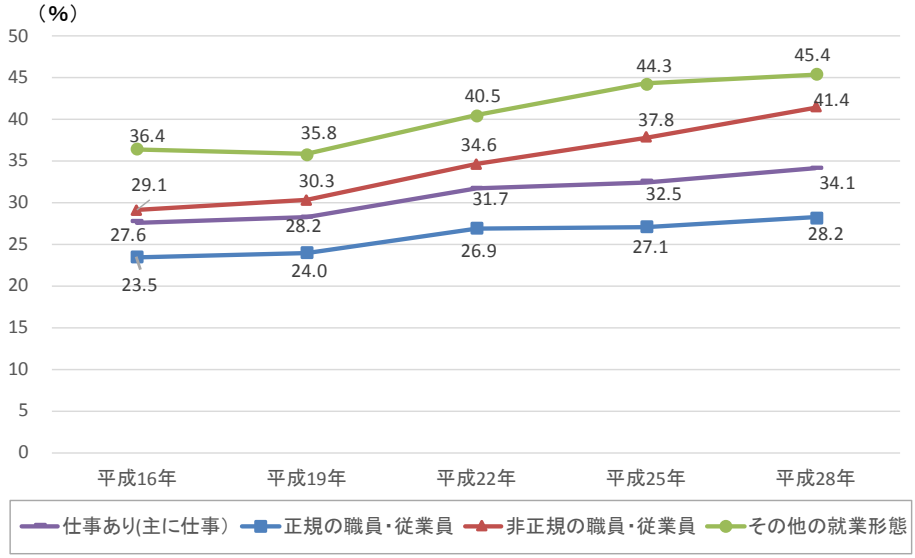
第３章 国民生活基礎調査からみる健康に関する実態（特別集計）

１　通院しながら働いている人の健康に関する実態

（１）通院しながら働いている人の割合の推移

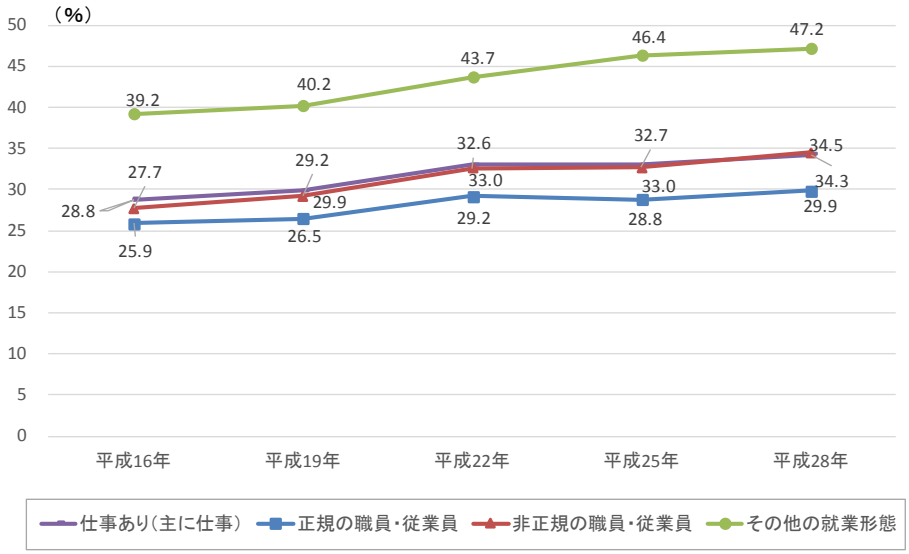
- 男女ともに、正規、非正規の別等にかかわらず、通院している割合が年々増加している。
- 仕事あり（主に仕事）でみても、男女ともに「通院している」の割合が年々増加している。

図3.1. 就業状況別に見た通院者の割合の推移（男性）



（備考） 年齢不詳は含まない。

図3.2. 就業状況別に見た通院者の割合の推移（女性）



（備考） 年齢不詳は含まない。

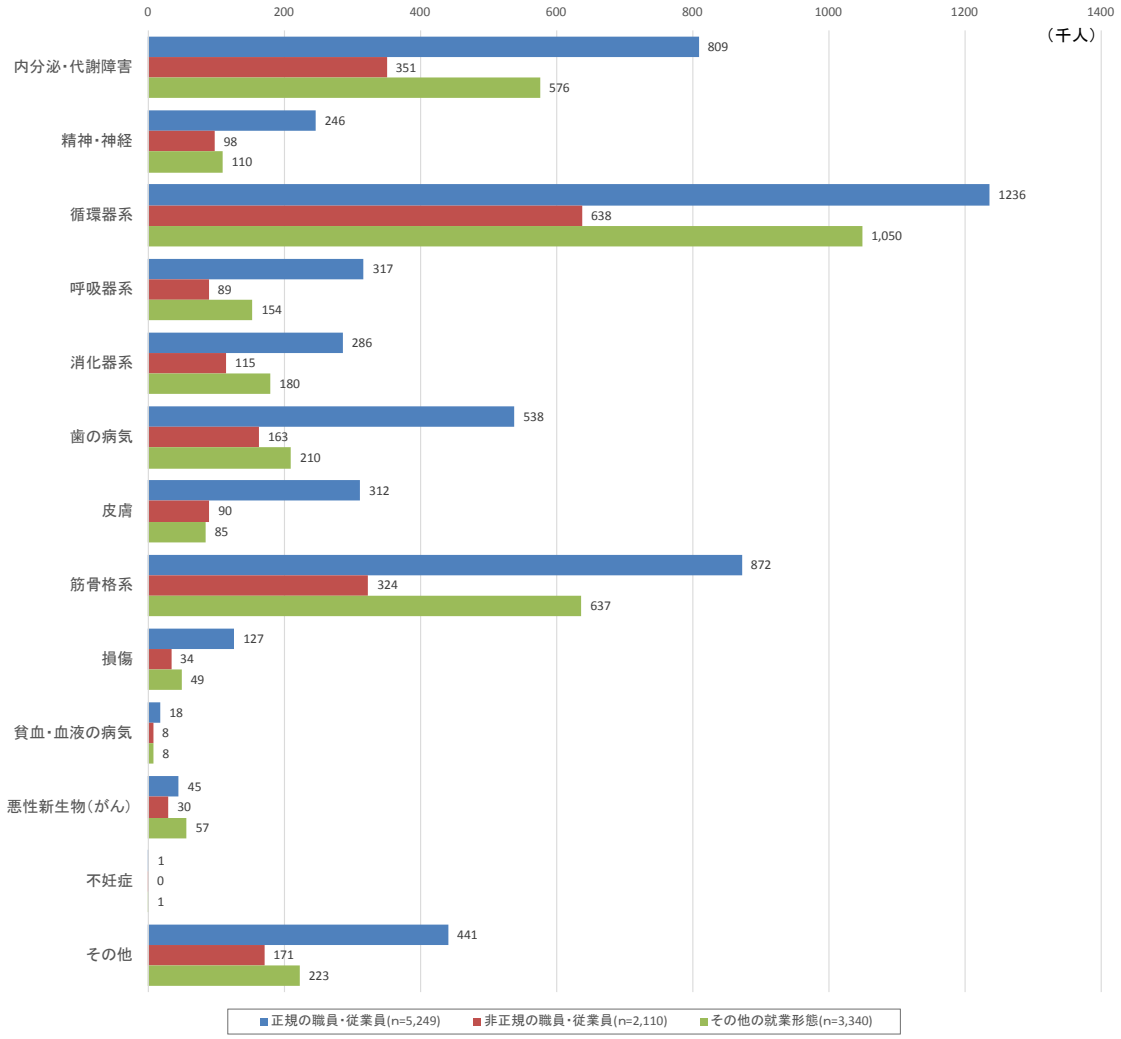
（２）通院している人と傷病の関係

１）通院している人が最も気になる傷病（※）と就業状況

- 【男性】通院しながら働いている人のうち平成 28 年の最も気になる傷病をみると、正規の職員、非正規の職員、その他の就業形態いずれも「内分泌・代謝障害（糖尿病、脂質異常症等）」、「循環器系（高血圧症、狭心症・心筋梗塞等）」、「筋骨格系（腰痛症、痛風等）」の傷病が上位である。
- 【女性】正規の職員、非正規の職員、その他の就業形態いずれも「循環器系(高血圧症、その他の循環器系の病気)」、「筋骨格系(肩こり症、腰痛症等」の傷病が共通して上位。他に正規の職員は「歯の病気」、非正規の職員、その他の就業形態では「内分泌・代謝障害(糖尿病、脂質異常症等）」が上位である。

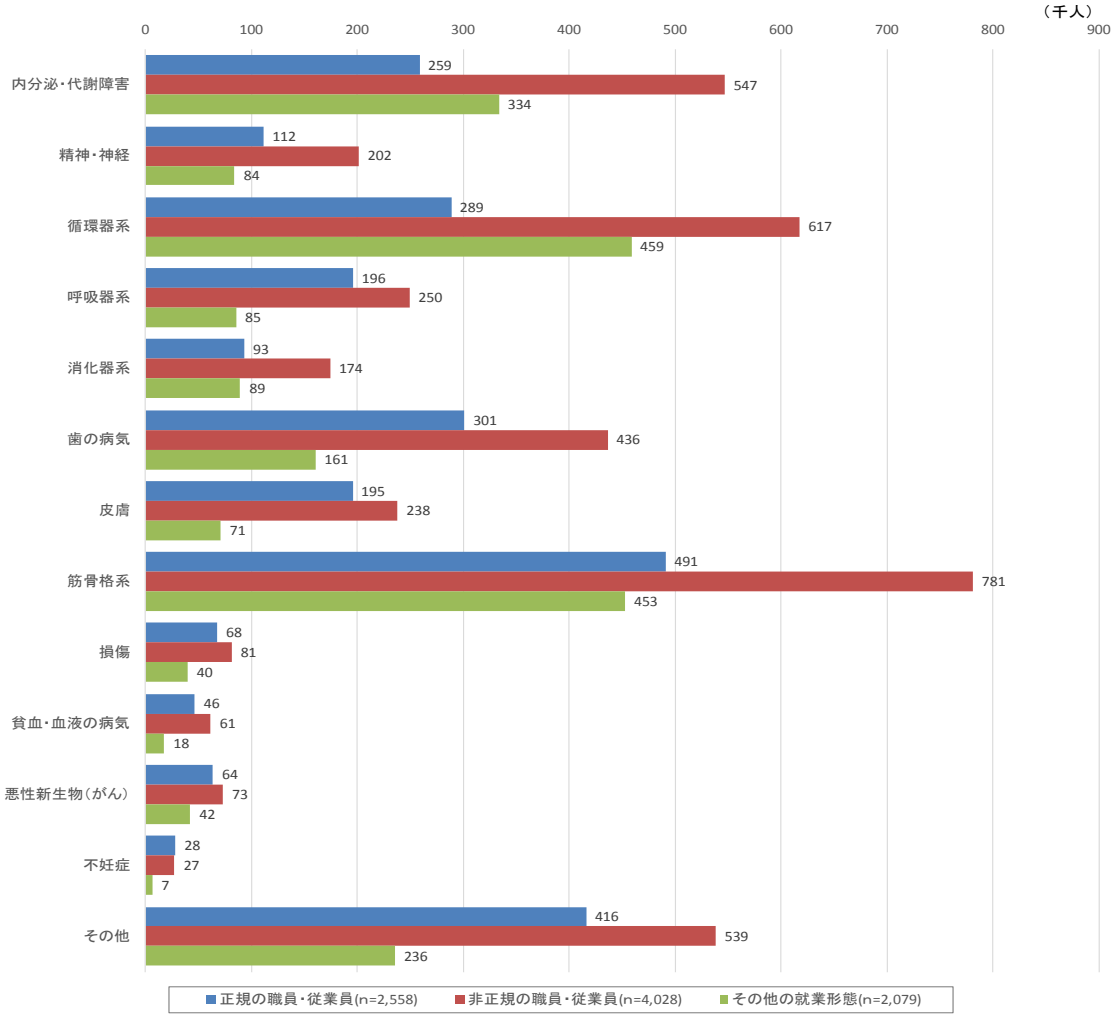
（※）「最も気になる傷病」とは、通院している傷病のうち、最も気になる傷病名のこと。

図 3.3.　就業状況別に見た最も気になる傷病（平成 28 年・男性）



(備考)　各 n 値は、傷病の「不詳」、「不明」を除いた総数。

図 3.4. 就業状況別に見た最も気になる傷病（平成 28 年・女性）



(備考) 各 n 値は、傷病の「不詳」、「不明」を除いた総数。

「最も気になる傷病」の傷病名の内訳について

傷病名の内訳は以下のとおり。

内分泌・代謝障害： 糖尿病、肥満症、脂質異常症（高コレステロール血症等）、甲状腺の病気

精神・神経： うつ病やその他こころの病気、認知症パーキンソン病、その他の神経の病気（ 神経痛・麻痺等）

循環器系： 高血圧症、脳卒中（脳出血、脳梗塞等）、狭心症・心筋梗塞、その他の循環器系の病気

呼吸器系： 急性鼻咽頭炎（かぜ）、アレルギー性鼻炎、慢性閉塞性肺疾患(COPD)、喘息、その他の呼吸器系の病気

消化器系： 胃・十二指腸の病気、肝臓・胆のうの病気、その他の消化器系の病気

皮膚： アトピー性皮膚炎、その他の皮膚の病気

筋骨格系： 痛風、関節リウマチ、関節症、肩こり症、腰痛症、骨粗しょう症

損傷： 骨折、骨折以外のけが・やけど

その他： 眼の病気、耳の病気、尿路生殖器系(腎臓の病気、前立腺肥大症、閉経期又は閉経後障害（更年期障害等)、妊娠・産褥（切迫流産、前置胎盤等)、その他

２　就業状況と健康に関する実態

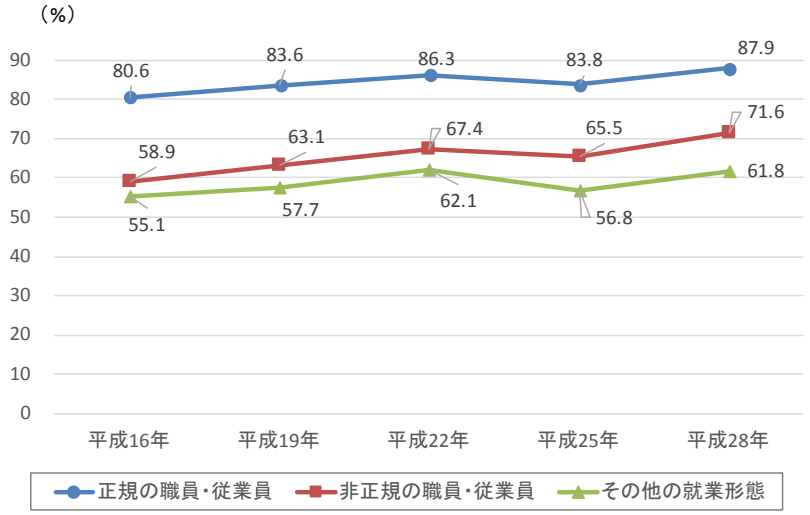
（１）　健診の受診状況

１）就業状況別に見た健診受診率の推移

【健診受診：過去１年間の健診等(健康診断、健康診査及び人間ドック)受診の有無】

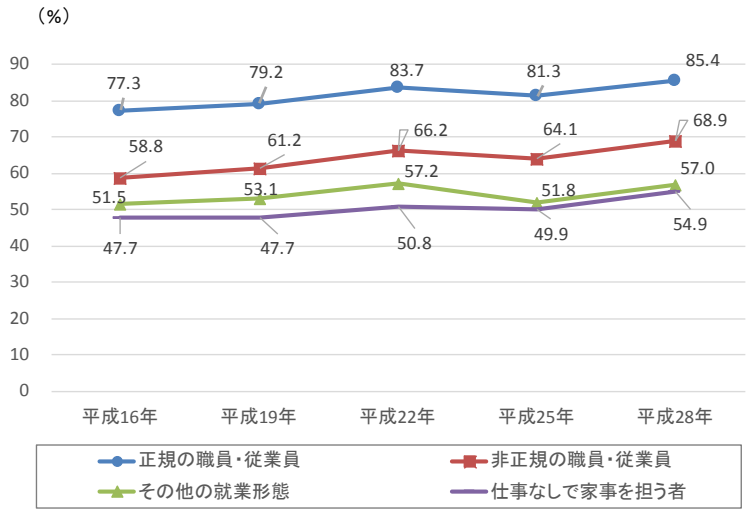
- 男性の正規の職員の健診受診率は、平成 28 年で 87.9%と平成 16 年から 7.3 ポイント増加し、非正規の職員は、同 71.6%と同 12.7 ポイント増加した。
- 女性の正規の職員の健診受診率は、平成 28 年で 85.4%と平成 16 年から 8.1 ポイント増加し、非正規の職員は、同 68.9%と同 10.1 ポイント増加した。

図 3.5. 就業状況別に見た健診受診率の推移（男性）



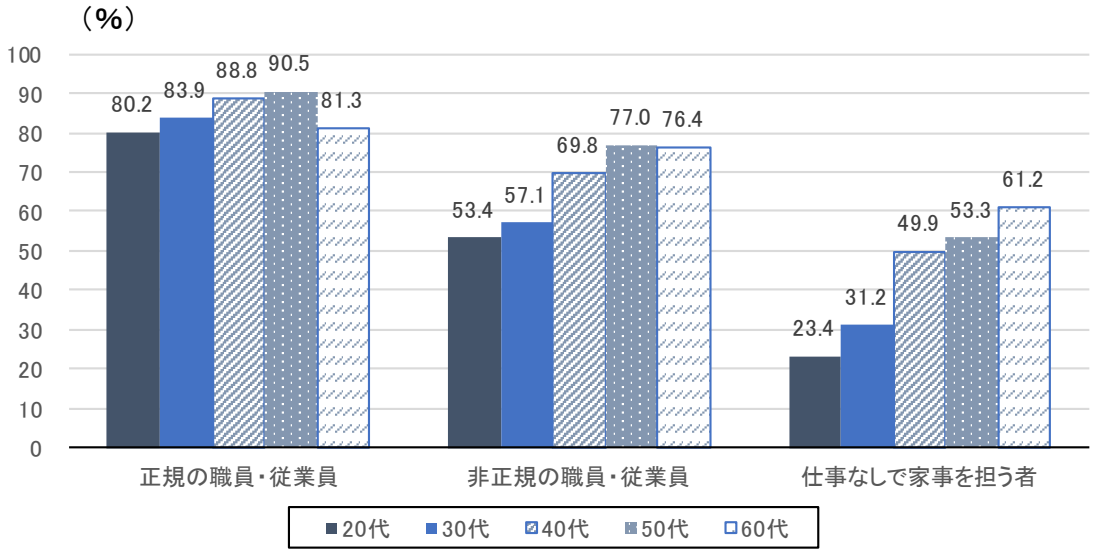
（備考）1.20 歳以上
2.受診率は、「受診率(%)＝「検診を受けた人数」÷「回答者総数」×100」で算出。

図 3.6. 就業状況別に見た健診受診率の推移（女性）



（備考）1.20 歳以上
2.受診率は、「受診率(%)＝「検診を受けた人数」÷「回答者総数」×100」で算出。

図 3.7. 年代別の健診受診率と就業状況（平成 28 年・女性のみ）



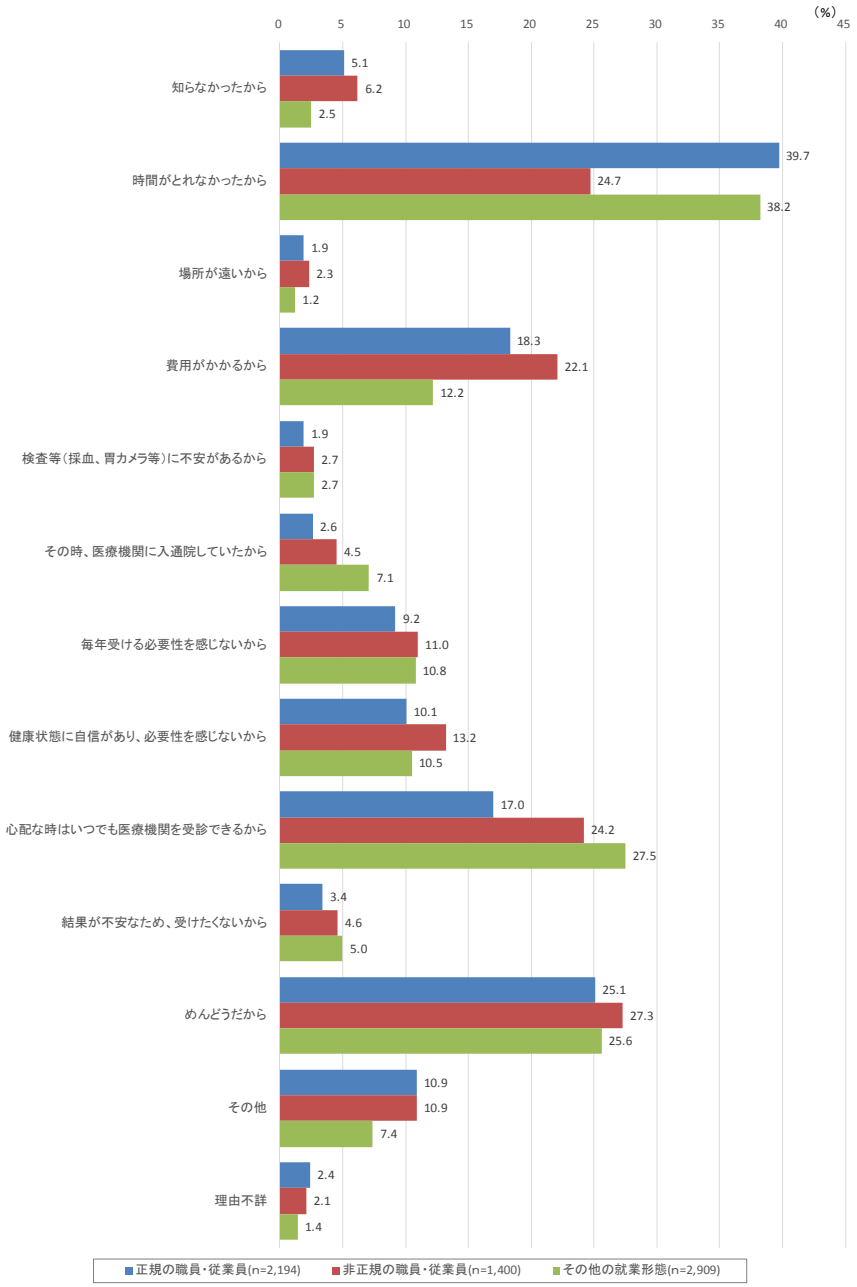
（備考）受診率は、「受診率(%)＝「検診を受けた人数」÷「回答者総数」×100」で算出。

２）就業状況別に見た健診を受けなかった理由

【過去１年間に健診等(健康診断、健康診査及び人間ドック)を受けたことがない人の理由】

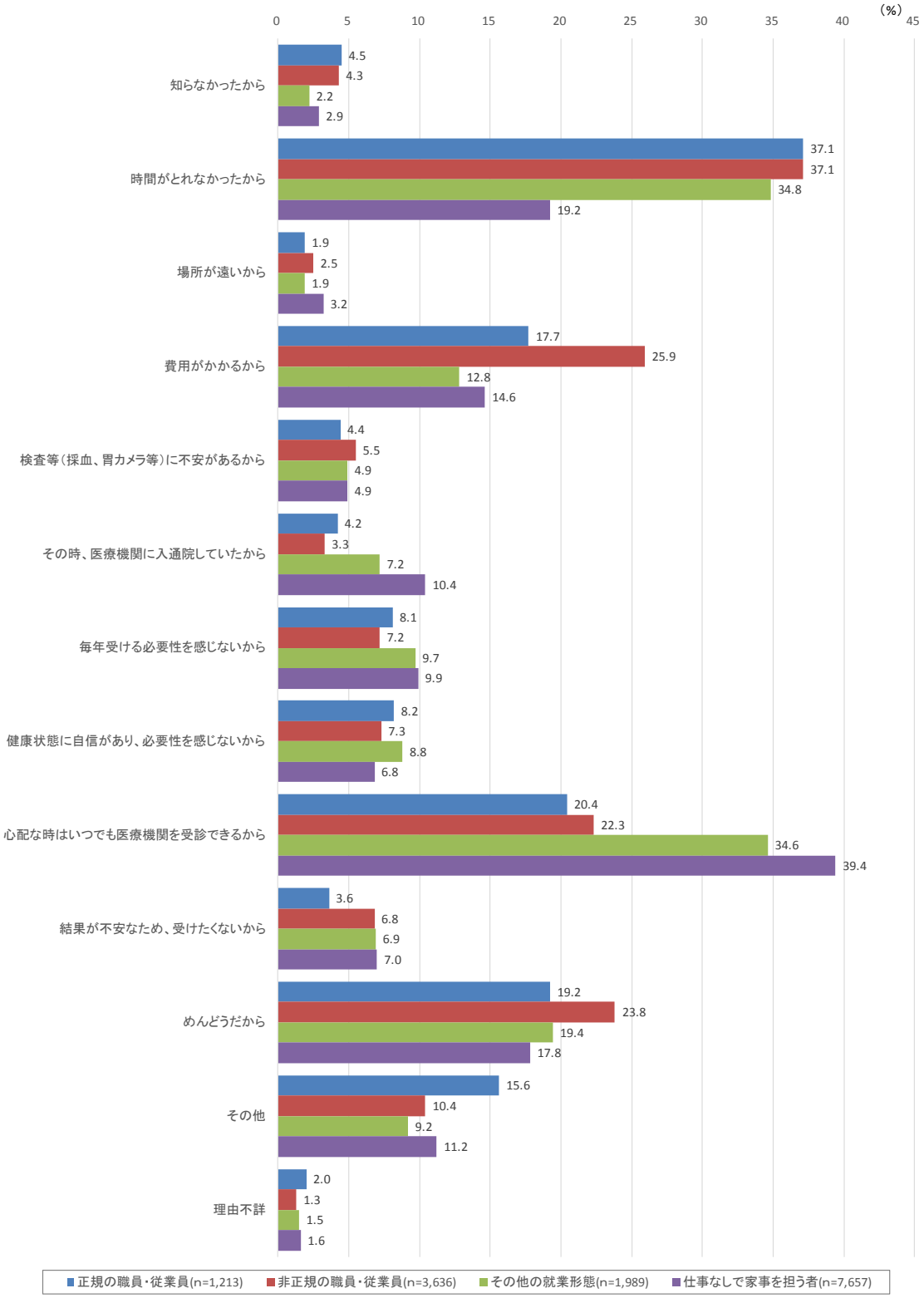
- 男女ともに、「時間が取れなかったから」、「めんどうだから」が上位の理由となっている。「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」も上位の回答となっているが特に女性の仕事なしで家事を担うものの一番の理由となっている。他に、男女ともに非正規職で「費用がかかる」の割合が高い。

図 3.8. 就業状況別に見た健診を受けなかった理由（平成 28 年・男性）



（備考）20 歳以上

図 3.9.　就業状況別に見た健診を受けなかった理由（平成 28 年・女性）



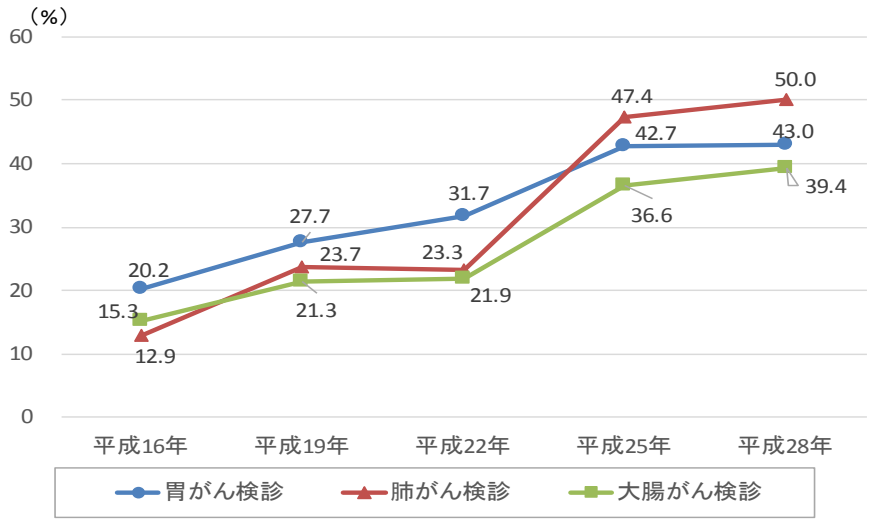
（備考）20 歳以上

（２） がん検診の受診状況

１）就業状況別に見たがん検診受診率の推移

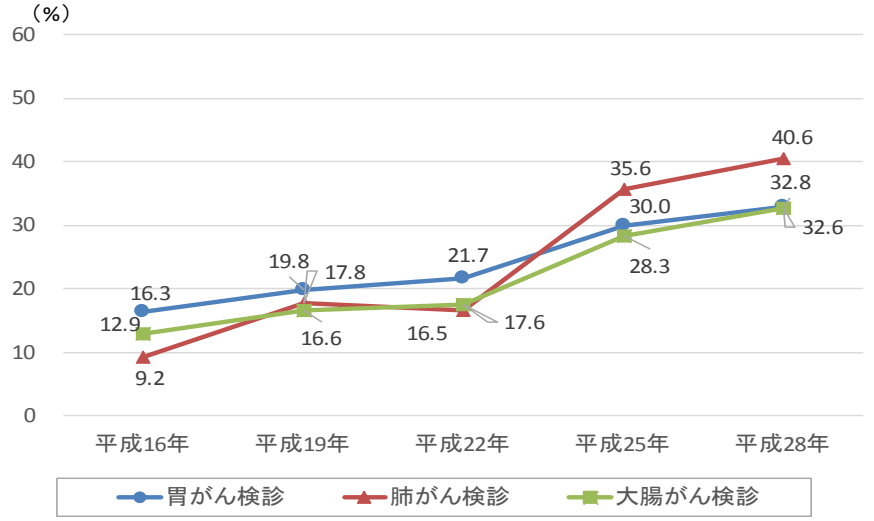
- 男女ともに仕事の有無にかかわらず、各がん検診について、平成 16 年から受診率が高まっている。
- 男性の正規の職員は平成 28 年に「肺がん」の受診率が５割となった。
- 女性の正規の職員は平成 28 年に「肺がん」の受診率が 44.3%、「子宮がん」が 40.9%となった。

図 3.10. 正規の職員（男性）のがん検診受診率の推移



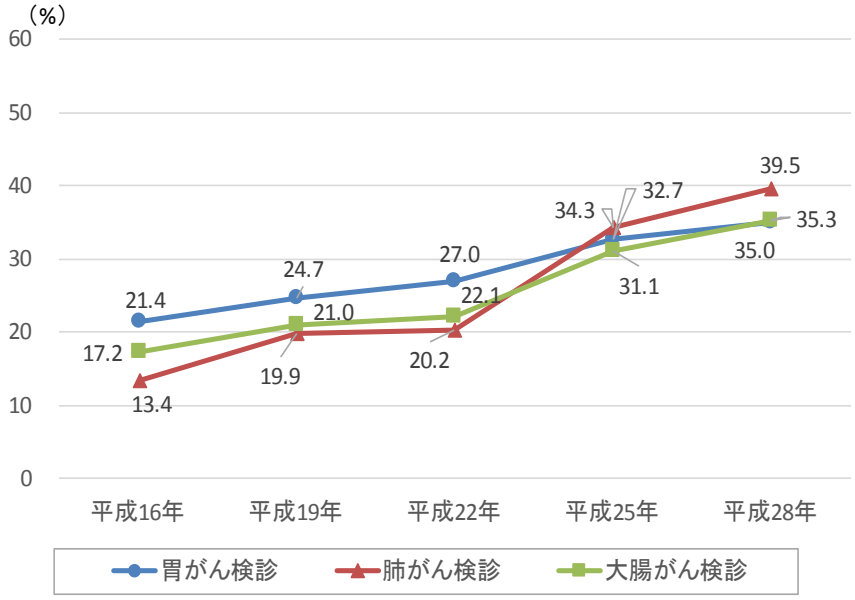
（備考）1.20 歳以上
2. 受診率は、「受診率(%)=「検診を受けた人数」÷「回答者総数」×100」で算出。

図 3.11. 非正規の職員（男性）のがん検診受診率の推移



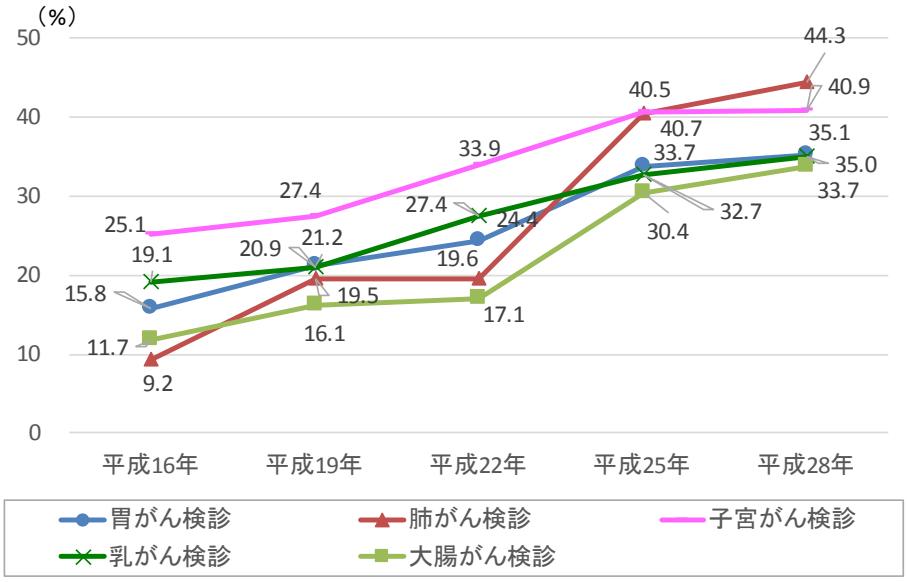
（備考）1.20 歳以上
2.受診率は、「受診率(%)=「検診を受けた人数」÷「回答者総数」×100」で算出。

図 3.12. その他の就業形態（男性）のがん検診受診率の推移



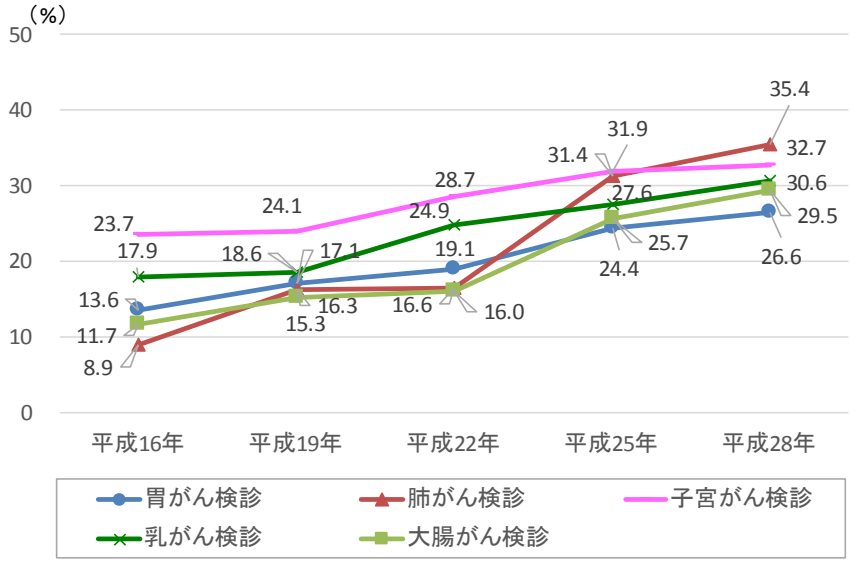
（備考）1.20 歳以上
2.受診率は、「受診率(%)=「検診を受けた人数」÷「回答者総数」×100」で算出。

図 3.13. 正規の職員（女性）のがん検診受診率の推移



（備考）1.20 歳以上
2.受診率は、「受診率(%)=「検診を受けた人数」÷「回答者総数」×100」で算出。

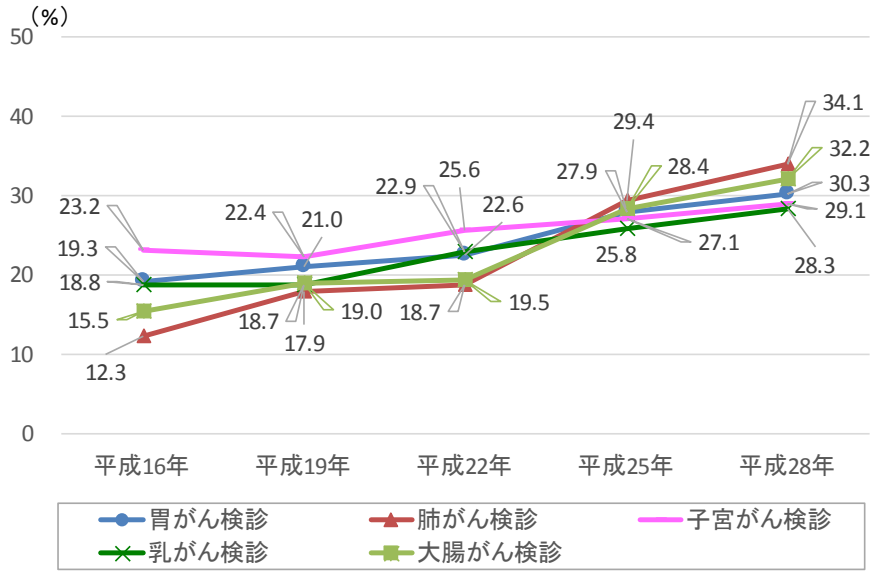
図 3.14. 非正規の職員（女性）のがん検診受診率の推移



（備考）1.20 歳以上

2.受診率は、「受診率(%)=「検診を受けた人数」÷「回答者総数」×100」で算出。

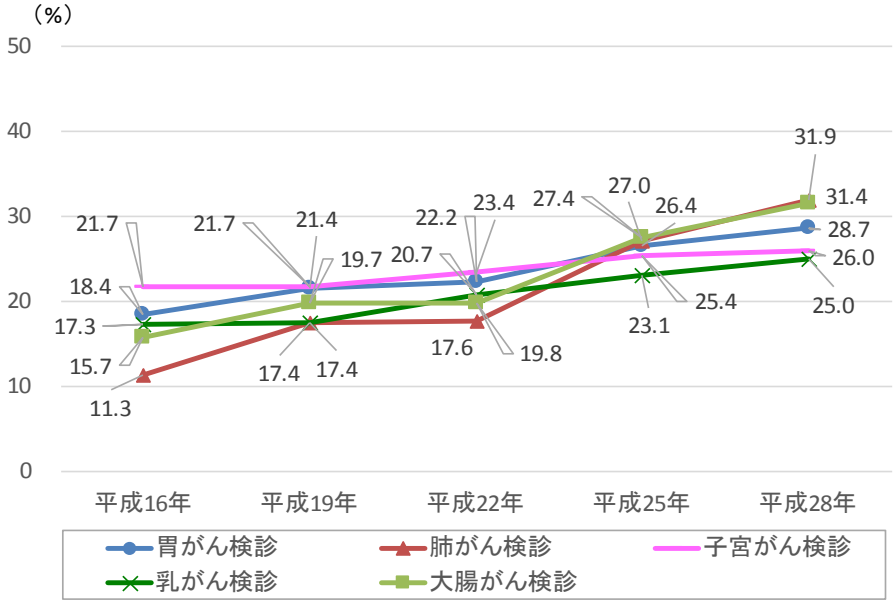
図 3.15. その他の就業形態（女性）のがん検診受診率の推移



（備考）1.20 歳以上

2.受診率は、「受診率(%)=「検診を受けた人数」÷「回答者総数」×100」で算出。

図 3.16. 仕事なしで家事を担う者（女性）のがん検診受診率の推移



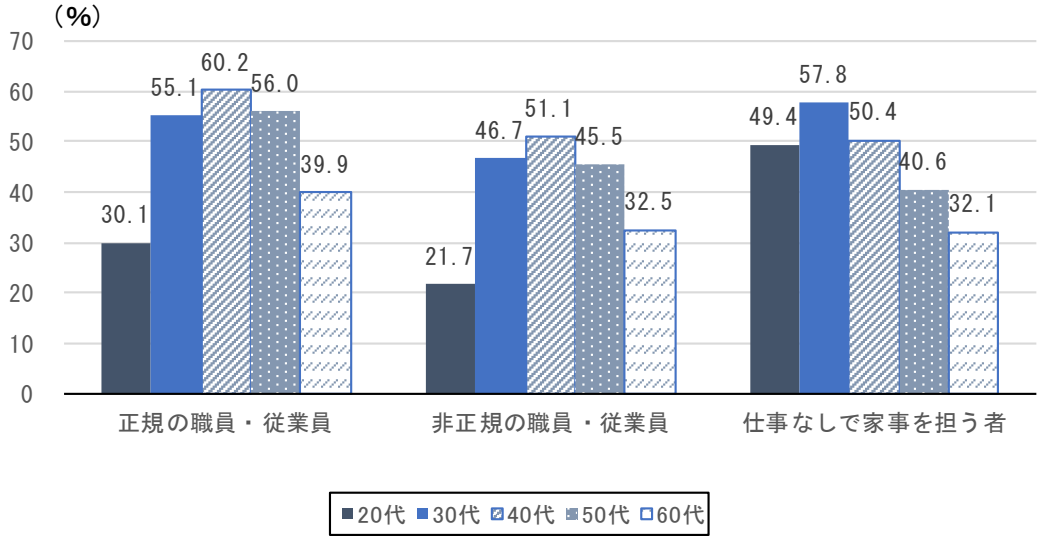
（備考）1.20 歳以上

2.受診率は、「受診率(%)=「検診を受けた人数」÷「回答者総数」×100」で算出。

２）過去２年間の子宮がん・乳がん検診の受診と年齢・就業状況との関係

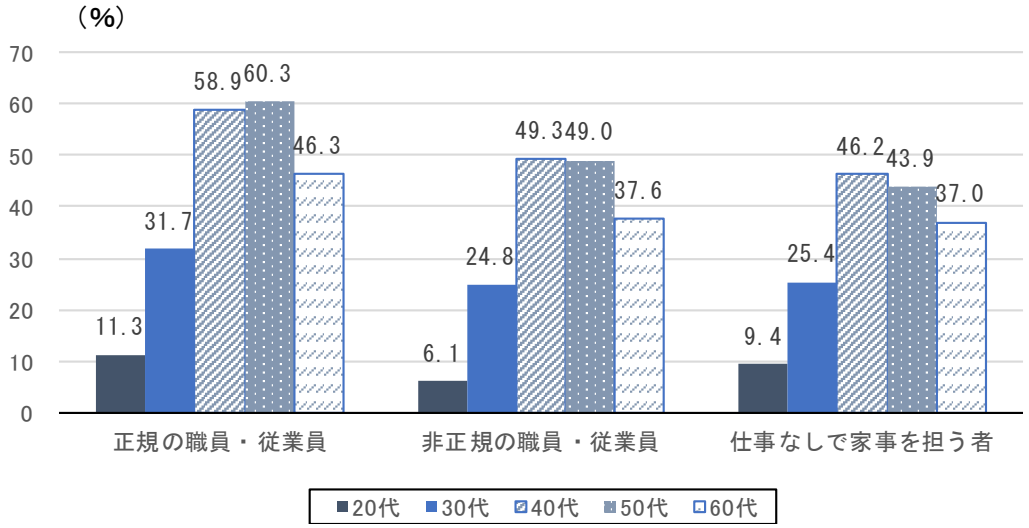
- 子宮がん検診、乳がん検診の受診率は正規の職員の方が、非正規の職員、仕事なしで家事を担うものと比較して、受診率が高い傾向が見られる。
- 子宮がん検診、乳がん検診ともに年代によって受診率のばらつきが見られる。特に乳がん検診は、20 代、30 代の受診率が低い。

図 3.17. 年代別の子宮頸がん検診受診率と就業状況（平成 28 年・女性のみ）



（備考）受診率は、「受診率(%)=「検診を受けた人数」÷「回答者総数」×100」で算出。

図 3.18. 年代別の乳がん検診受診率と就業状況（平成 28 年・女性のみ）



（備考）受診率は、「受診率(%)=「検診を受けた人数」÷「回答者総数」×100」で算出。

３　介護しながら働いている人の実態

（１）　同居の主な介護者の就業形態と性別の関係

15 歳以上の介護者(世帯票)と手助けや見守りを要する者(世帯票)が同居している場合の結果である。

なお、手助けや見守りを要する者とは、在宅の６歳以上の世帯員であって、歩行・移動、着替え、洗面、食事、排せつ、入浴等に際して何らかの手助けや見守りを必要とする者や、意思疎通が困難な者、介護保険法による「要介護」「要支援」の認定を受けている者などをいう。

- 手助けや見守りを要する者と同居している介護者を就業状況別に見ると、平成 28 年に正規職員の男性は 26 万人、女性が 25 万人、非正規職員の男性は 14 万人、女性は 49 万人が同居者の介護をしながら働いている[5]。

図 3.19.　同居の主な介護者の就業形態（男性）

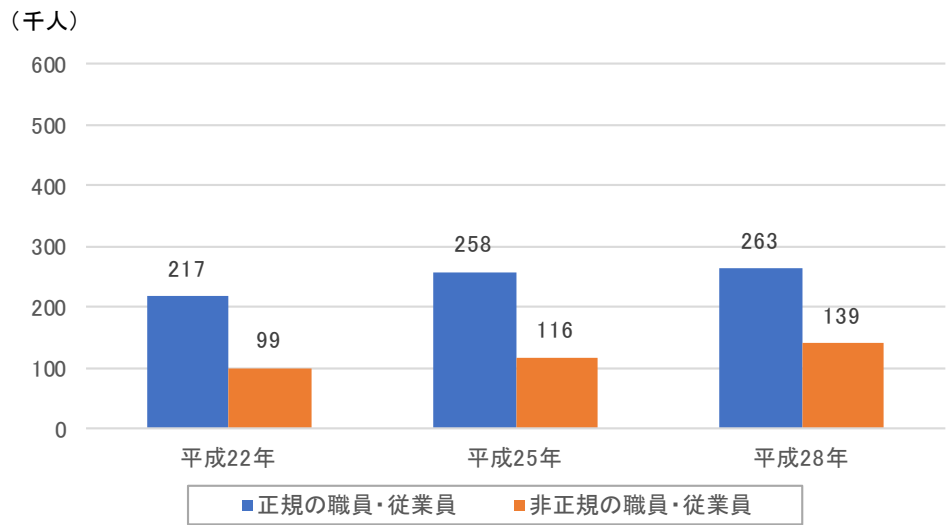
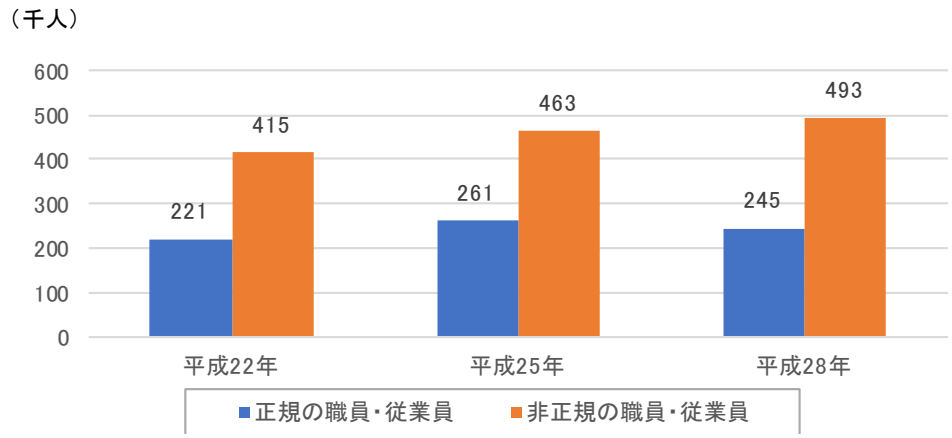


図 3.20.　同居の主な介護者の就業形態（女性）



[5] 正規職員の男性に占める割合は、1.3%、女性に占める割合は 2.7%、非正規職員の男性に占める割合は 2.5%、女性に占める割合は 3.9%である。